

「遺伝子編集技術 CRISPR-Cas3 の概要と応用事例について」

東京大学医科学研究所・教授

真下 知士

ゲノム編集はバイオサイエンスや医薬開発研究の革命的技術である。正確なゲノム編集、エピゲノム編集、遺伝子転写調節、細胞スクリーニングなど次々と開発されている。我々は最近、日本発の新規ゲノム編集技術 CRISPR-Cas3 を開発した。CRISPR-Cas3 は、農水産業における品種改良、遺伝子治療、再生医療での新規治療法開発など、幅広い産業分野においての活用が期待されている。

- 1994年 3月 京都大学農学部畜産学を卒業
- 2000年 3月 京都大学大学院人間・環境学研究科文化・地域環境学専攻にて博士号修得
- 2000年 4月 フランス・パスツール研究所免疫学講座ポスドク研究員
- 2003年 1月 京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設産学連携研究員
- 2003年 11月 京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設 COE 助教授
- 2007年 5月 京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設特任准教授
- 2015年 4月 大阪大学大学院医学系研究科附属動物実験施設准教授
- 2016年 4月 大阪大学大学院医学系研究科附属共同研ゲノム編集センター長
- 2019年 6月 東京大学医科学研究所実験動物研究施設先進動物ゲノム研究分野教授
- 2019年 7月 東京大学医科学研究所附属実験動物研究施設長、同研究所附属奄美病害動物研究施設長 現在に至る